# 歴史サークルに参加して

井　上　憲　二

**なぜ博物館へ行くの？**

昔、古くて役に立たなくなったものを「博物館行き」と呼んでいました。しかし言い換えれば、数少なくなり廃れていく物を保存し後世に伝える博物館の機能の一つを表した言葉でもあります。では私たちが博物館へ行こうと思う動機は何でしょうか。

・教育の一環として強制的に見学させられる
・趣味とか知識欲による疑問を解決する為
・教養を満たす娯楽空間として利用する

博物館は問題解決の場所でもあり、問題発見の場所でもあります。展示されている内容に関する疑問にはほぼ、研究員から的確な回答を得る事が出来ます。会話することにより当初は意識していなかった問題もクリアになることもあります。しかし、ほとんどの見学者は研究員（学芸員）と会話することはありません。専門家である研究員の話を聞くことでどれだけ有意義な情報を得られるか。

**歴史を学ぶとは？**

ところで、我々の日々の生活において歴史を学ぶ意味は何でしょうか。歴史といってもまずは自分史、そして身近な生活空間である郷土史（地方史）から始まって日本史、世界史へと広がります。私たちが学校で学ぶのは日本史とか世界史と云われるものです。自分史は親から学び、自分自身が体験し作っていく歴史です。では郷土史はどこで学べば良いのでしょうか。

小中学校と地域や家庭のコミュニティが次第に薄れてきたことを感じることはありませんか。ＩＴの進化によって空間の概念が大きく変わりました。農村集落、地方都市、郊外団地、都会の高層住宅、それぞれに異なる新たな「郷土史」が始まるはずです。歴史を学ぶことは新しい未来に向かって、過去とは違うコミュニティを創出する作業の一つと思います。世界史や日本史の学びでは解決できない生活の歴史を共有する必要があるのではないでしょうか。行政や企業、各種団体が様々な提言を発信し活動していますが、その担い手として博物館の存在を主張したいと思います。

私の歴史好きは、中学生の頃、生まれ育った尾道の歴史を郷土史家から学んだことに始まります。その時も瀬戸内の港町であった尾道が、中世以降の大阪の繁栄や大阪城築城にかかわっており、日本史の教科書にかかわることを学びました。そして今は、千葉です。県立博物館が郷土のコミュニティを形成するに相応しい規模かどうか分かりませんが、幸いなことに分館をはじめ市町村の博物館の活動が期待されるので、県としての役割を考えれば良いのでしょう。

**私たちの博物館では？**

なんとなく博物館に興味はあるが行動にまで至らない人たちに、どうすれば足を運んでもらえるでしょうか。地域コミュニティの中に確かな根がはっていると感じるのは図書館や公民館です。ここには常に様々な世代の人たちが集まっています。学校はもちろん外部の様々な機関と連携し、博物館に新たな「協力層」を構築することが必要であると思います。千葉県立中央博物館の友の会が機能しなくなったことは残念ですが、サークル活動として新たな展開に至ったことは大きな意味を持つのではないでしょうか。

歴史サークルでは月一回の例会を設定し、研究員の先生方を講師として，ご専門のテーマについて解説頂いたり、古文書を読み解き、その背景となる歴史に思いを寄せたりしています。また体験学習としては伊能忠敬の地図測量体験や黒曜石を使って縄文時代の調理体験なども行いました。房総の神社仏閣、歴史的施設や街並みなどの散策も大変楽しいイベントです。そして会員同士の研究発表会も充実して参りました。これらはすべて博物館の歴史展示室から派生した県民（市民）の活動です。

研究員による展示解説風景

（歴史サークル幹事）